

令和5年度 全国健康保険協会岩手支部第2回評議会 議事概要

【開催日時】 令和5年10月17日（火曜）10：00～11：15

【開催場所】 朝日生命盛岡中央通りビル2階A会議室

【出席者】 鎌津田春美 熊谷敏裕 熊谷英典 佐藤工

菅原和彦 田口斉 藤村文昭 宮寺良光 （五十音順、敬称略）

【議事】

- ・議題1 令和6年度平均保険料率について
- ・議題2 令和6年度事業計画及び支部保険者機能強化予算の策定に向けた意見聴取

【議事の経過】

支部長挨拶後、各議題について協会より説明を行い、その後に出席者からの質疑等の発言を求めました。発言の内容は以下のとおりとなります。

（1）令和6年度平均保険料率について

【学識経験者】

なぜ賃金の上昇に伴い、加入者一人当たりの医療給付費の伸び率が高くなるのかわからない。

また、今後10年間における平均標準報酬月額推移が平均0.7%とあるが、少し違和感がある。今後の賃金上昇率は高くなると考えるのが自然ではないか。国民や県民に対して説明する際に、納得できるような数字でないと、理解してもらえないと考える。

<事務局>

運営委員会によれば、賃金上昇率に伴い、加入者一人当たり医療給付費の伸び率が高くなるということが、統計的に示されている。また、医療機関の物件費や人件費も上昇していくということも影響している。

平均0.7%については、過去10年間の実績に基づいており、将来的な賃金の上昇を加味したようなものではない。将来の予測をするのは難しいが、令和4年度においては後期高齢者支援金の精算が無ければ赤字基調だったということと言える。

【事業主代表】

赤字の健康保険組合が解散し、協会けんぽへ移行すると協会けんぽとしてはやはり赤字構造になるのか。

<事務局>

健康保険組合の保険料率がそれぞれ異なるので、一概には言えないが、一般的に 10% 以上の保険料率を超えると協会けんぽへ移行してくる。10%以上の保険料率でも赤字なのであれば、協会けんぽに移行すると赤字幅は増える方向に傾くと思われる。

【事業主代表】

中小企業では収益は増収になっても減益となっており、負担が増えるのは厳しい。今まで準備金残高があまりにも積み上がりすぎているので、統計的に確実な見込みを示してもらわないと理解しがたい。

【学識経験者】

後期高齢者支援金について健康保険組合において、総報酬割の導入も要因の一つとなり赤字が増えた、という認識があるが、赤字の健康保険組合が解散し、協会けんぽへ移行すると協会けんぽの負担が増えるのか。

<事務局>

解散するということは、財政的に悪化していることが想定されるため、協会けんぽの負担が増える可能性もあると思われる。

【被保険者代表】

被扶養者が被保険者となり、保険料の個人負担分を事業所が負担すると、国が事業所へ補助金を支払うという制度は、保険料率に影響するのか。（いわゆる年収の壁問題に関する質問）

<事務局>

被保険者が増える分、保険料収入は増えると思われるが、保険料率にどの程度影響するかは不明である。

【事業主代表】

薬剤の高騰などで医療費は上昇している。今後もこのような傾向が続いていくと支出増が予測されるため、平均保険料率は 10%維持で良いと考える。

【学識経験者】

高額な新薬の薬価収載について、国との協議はあるか。医療費（薬剤費）に与える影響を考えると、もっと議論を活発にする必要がある。

<事務局>

中央社会保険医療協議会等で協議している。

(2) 令和6年度事業計画及び支部保険者機能強化予算の策定に向けた意見聴取

【学識経験者】

生活習慣病予防健診について、きちんと認識していない事業主が少なからずいる。健診項目や健診費用、対象年齢などもっとわかりやすく広報する必要がある。

＜事務局＞

来年度から付加健診の対象年齢が5歳刻みに変更されることもあり、もっとわかりやすい広報に努めたい。

【被保険者代表】

運輸業の hypertension リスク保有者の割合が高いのはなぜか。

＜事務局＞

不規則な食事や喫煙等が考えられる。

【学識経験者】

脳血管疾患や心疾患などによる過労死の割合も運輸業が高いというデータがある。長時間運転等により血流が悪くなってしまうという話も聞いたことがある。

【事業主代表】

塩分摂取量測定で具体的な検査数値を示されると、やはり気を付けよう、という啓蒙になるので、良いと思う。

【学識経験者】

北東北の食文化は、関東に比べるとしょっぱい。イギリスでは、パンに含まれる塩分量を徐々に減らしていくという取り組みを行った事例があるので紹介したい。

(3) その他

なし。